

## 子どもに対する新型コロナワクチンの接種について

あらいこどもクリニック/ 眼科クリニック 荒井宏治

8月から12歳以上の子どもについても新型コロナワクチン接種のための予約が開始されています。当院にもその問い合わせが来ていて、対象年齢であれば接種したほうが良いと答えています。その前に子どもに対するこのワクチンのメリット（感染予防等）とデメリット（副反応）についての理解をお願いしています。そもそも新型コロナウイルスに対するこのワクチンは1年足らずという異例の速さで開発され、日本では今年2月に特例承認されました。最初は医療従事者の接種で開始され、5月ごろから世界でも類を見ないスピードで高齢者への接種が進みましたが、最近ではワクチンが入荷不足になっています。さらに感染力が強いデルタ株の広がりによって、感染者数は8月23日時点で累計130万人以上になり、最近の感染者の割合はワクチン接種がほぼ終了している高齢者は減少していますが、20～40歳代の感染者数や40～60歳代の重症者数が急増しています。したがって成人の接種は急ぐべきで、接種後に熱や局所痛が多少あっても、感染拡大や重症化を防止できるこのワクチンのメリットは大きいと言えます。

一方、20歳未満の重症化は極めて稀とされていますが、第5波から家庭や学校内感染が急増しており、このワクチンの子どもに対する有効性も確認されていることから、どうしても休めない受験やスポーツ大会、就学旅行のために接種することは理にかなっています。しかし日本国内の治験数が少ないため、副反応についてまだわからないことが懸念されていて、小児科の学術団体から接種前後での十分な説明と慎重な対応が必要という提言が出されています。また成人接種の副反応の調査から、年齢が若い人程、接種後の疼痛や発熱、全身倦怠感、頭痛の頻度や程度が大きいことから、子どもでは相応の副反応があると推測されます。しかし今後も続くコロナと共存する社会において、このワクチンが希望する子どもに接種されることは、安全な学校生活を送るために大切なことです。したがって子どもへの接種に際しては、メリットとデメリットの情報提供を十分な説明と同意を得て、接種後も副反応のきめ細やかな対応がとられることで安全に進めていくことが重要であると思います。